

平成22年2月26日

各 位

上場会社名 イオンファン
 代表者 代表取締役社長 中下善昭
 (コード番号 4343)
 問合せ先責任者 経本部本部長 井上義信
 (TEL 043-212-6203)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年12月24日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年2月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年2月21日～平成22年2月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	46,780	3,680	3,750	1,950	107.57
今回発表予想(B)	43,690	2,600	2,440	1,190	65.64
増減額(B-A)	△3,090	△1,080	△1,310	△760	
増減率(%)	△6.6	△29.3	△34.9	△39.0	
(ご参考)前期実績 (平成21年2月期)	48,069	3,625	3,709	1,935	106.79

修正の理由

当期は、第2四半期累計期間までの売上高において、対前年比5.3%減と厳しい状況ではありましたが、3歳から7歳までのキッズ部門の強化による荒利ミックスの改善や販管費圧縮の結果、営業利益において対前年比17.8%増となりました。しかしながら第3四半期に入り、新型インフルエンザの流行拡大により、キッズ部門の集客が大きく落ち込み、第3四半期会計期間の売上高は対前年比15.0%減となりました。

新型インフルエンザの影響は概ね11月度で底打ちしましたが、年間最大の商戦月度となる1月度まで続き、1月度の売上高は正月休みの減少もあり、計画以上に前年を下回りました。その結果、荒利益高の落ち込みをコスト削減でカバーするに至らず、業績予想を下回る見通しとなりました。

今後については、“遊びを通じた子供たちの健全な育成”を当社の事業ドメインと定め、実験で大きな成果をあげた“創育事業”の展開の核となる“スキッズガーデン”を一気に既存店に拡大いたします。また、中国直営事業は1号店が年間黒字となったことを鑑み、外部ディベロッパーへの出店も視野に多店舗化を進めてまいります。

以 上

平成22年2月26日

各 位

上場会社名 イオンファン
 代表者 代表取締役社長 中下善昭
 (コード番号 4343)
 問合せ先責任者 経本部本部長 井上義信
 (TEL 043-212-6203)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年12月24日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年2月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年2月21日～平成22年2月20日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	46,780	3,680	3,750	1,950	107.57
今回発表予想(B)	43,690	2,600	2,440	1,190	65.64
増減額(B-A)	△3,090	△1,080	△1,310	△760	
増減率(%)	△6.6	△29.3	△34.9	△39.0	
(ご参考)前期実績 (平成21年2月期)	48,069	3,625	3,709	1,935	106.79

修正の理由

当期は、第2四半期累計期間までの売上高において、対前年比5.3%減と厳しい状況ではありましたが、3歳から7歳までのキッズ部門の強化による荒利ミックスの改善や販管費圧縮の結果、営業利益において対前年比17.8%増となりました。しかしながら第3四半期に入り、新型インフルエンザの流行拡大により、キッズ部門の集客が大きく落ち込み、第3四半期会計期間の売上高は対前年比15.0%減となりました。

新型インフルエンザの影響は概ね11月度で底打ちしましたが、年間最大の商戦月度となる1月度まで続き、1月度の売上高は正月休みの減少もあり、計画以上に前年を下回りました。その結果、荒利益高の落ち込みをコスト削減でカバーするに至らず、業績予想を下回る見通しとなりました。

今後については、“遊びを通じた子供たちの健全な育成”を当社の事業ドメインと定め、実験で大きな成果をあげた“創育事業”の展開の核となる“スキッズガーデン”を一気に既存店に拡大いたします。また、中国直営事業は1号店が年間黒字となったことを鑑み、外部ディベロッパーへの出店も視野に多店舗化を進めてまいります。

以 上